

多雨・多湿対策特報 2020・7 月

2020 年 7 月 17 日
JA 中野市営農センター

果実腐敗性病害の感染拡大や排水不良による生理障害発生が心配されます。ついては、下記を参考に対策を講じてください。

《気象特記（7 月上旬）：平均気温（平年比：並）-0.9℃ 降雨 152%（極多） 豪雨 52.5 mm（7/8） 日照量 43%（極少）》

1. 果樹

① 共通

- ◆ 滞水した場合は、早急に低滞水の排水を図る。
- ◆ 冠水した場合：①疫病や内部褐変が発生しやすいため、出荷しない。②早急に排水対策を講じる。③枝・葉に付着した泥やゴミは速やかに洗い落とす。
- ◆ 支柱立て・枝つり・徒長枝切り等を行い、受光態勢を良好にする。
- ◆ 病害感染防止のため、薬剤の散布死角がないようにする。

② ぶどう

- ◆ 園内が暗い場合は随時、新梢管理を実施する。ただし、極端な新梢管理を行うと縮果症や日焼けが発生注意する。
- ◆ 黒とう病・べと病・晩腐病対策：10 日間隔厳守で薬剤散布を進める。 ＊詳細はぶどう特報参照
- ◆ 早めに袋かけを実施する。

③ もも・プラム

- ◆ 冠水した場合は根が障害を受け、樹勢低下等が発生しやすいため、早急に排水対策を講じて樹体保護を図る。
- ◆ 着色不良、糖度不足が心配されるため、支柱立て・徒長枝整理により日照量を確保し、反射マルチを敷き着色向上に努める。
- ◆ 着色が遅延し、果肉先行型になると予想されるため、熟度を優先して収穫を進める。
- ◆ 灰星病対策：①10～14 日間隔厳守で定期散布を進める。＊詳細はもも・ネクタリン特報参照
②発病果実は、周囲の果実に対して伝染源になるため、見つけ次第除去し土中に埋める。

④ りんご・ナシ類

- ◆ りんご炭そ病対策：7 月中旬の特別散布等を実施する。 ＊詳細は果樹特報 No5 参照
- ◆ 園内が暗い場合は随時、新梢管理を実施し、薬液到達及び結果枝への日当たり確保を図る。

2. 野菜・花き・水稻

- ① 共通・排水不良による土壌病害等の発生が心配される。園地が降雨で滞水しないように溝を掘り（明渠）排水対策を行う。
- ◆ 低日照により樹勢低下が心配される。樹勢維持のため、状況に応じて薬剤散布時にアミノ酸入り葉面散布剤（アミノメリット特青ハイプログリーン等）を散布する。

- ② 野菜 アスパラガス 1、茎枯れ病の二次感染が心配される。病斑の出ている茎は刈り取り園地外に運び出す。
- 2、過繁茂とならないよう立茎数を整理し、農薬の薬液が内部まで届くようにする。
- 3、疫病の感染が心配される。フォリオゴールド 1,000 倍を株元中心に散布する。

- キュウリ 1、低日照により、例年と比べ着果負荷が大きくなる。曲がり果は積極的に摘果し株の勢いを維持するよう努める。
- 2、べと病、炭ソ病等の病害の発生が心配される。防除間隔が空きすぎないよう晴れ間を見て散布する。（防除暦参照）

- ③ 水稻・いもち病の発生が心配される。

- ◆ 昨年発生した圃場では、「穂いもち病」の予防として、7 月中下旬に「コラトップジャンボ」等を散布する。
- ◆ 昨年問題とならなかった圃場でも、いもち病の発生が確認された場合は、「オリブライト 1 キロ粒剤」等を散布する。

- ③ 花き トルコギキョウ 連日の低日射は、花芽の生育停止（ブラスチング、ブラインド）になりやすくなる。
- 寒冷紗は曇天時開けて光が入るようにし、未設置の場合は、曇天後の強日射による花傷み防止のために展開できるように準備を進める。

- アスター、コギク 湿度が高いとさび病発生が心配される。発生初期には、治癒効果のあるストロビーフロアブル 2,000 倍を散布する。下葉かきを行う際には、極力雨天時を避け収穫より 1 週間前に作業を終わらせ、ポリオキシ AL 水溶剤 2,500 倍または、ダコニール 1000 を 1,000 倍散布する。

施設品目 降雨によりハウス内の湿度が上がり灰色かび病や、立ち枯れ病が発生しています。薬剤散布の間隔を詰めて発生を抑止するとともに、ハウス内の菌密度を下げる。降雨が続くようであれば、ハウスの外周からハウスの中に雨水が入らないように、ハウス外周の明渠を掘る。

露地品目 土壌内の水分が飽和状態になると、根腐れの心配があるため明渠などの排水対策を行う。下葉の黄化や側枝の発生が少ない場合には葉面散布を行い、樹勢回復を図る。